

自然を語る会
『次なるパンデミックを回避せよ』を読む

2021年5月15日(土) 10時~12時

参加者 21名 (含: 飯田橋会場 3名)

担当: 岩淵さん

本日は序章、1章、2章について資料に基づく丁寧な解説があり、論議した。

ブラジル、コンゴ、インドネシアで特に森林破壊が進んでいる。これは森林資源の減少だけでなく、マラリアなどの動物感染症が増えることにもつながっている。動物感染症の発生源は森であるが、特に森林破壊が進んでいる場所では良好な自然環境の場所の2~300倍もの感染リスクがあることが報告されている。

特に蚊が病原体を媒介することが多いが、気候の温暖化、集中豪雨などで水たまりが消失しないなどの理由でマラリア、デング熱などが今後北の地域でも問題になる可能性がある。

パーム椰子のプランテーションで熱帯雨林の破壊が問題になっているが、それは南の国の問題というだけではない。パーム油は化粧品、チョコレートなど多くのものに使われており、それを利用している我々も関わっている問題なのだ。いつも買っている物に何が含まれているかなどにも気をつけなくてははいけない。蚊の発生がいろいろな病気を引き起こすことを知り、せめて庭やプランター辺りの整理をしようと思う。日本でもかつてマラリアがあったということを知らなかったのでびっくりした、等々の発言があった。

(文責 小川)